

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01338

研究課題名（和文）第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害の比較研究

研究課題名（英文）The Development of Antisemitism in Central-Eastern Europe during the Interwar Period: From the Perspective of Regional Comparison

研究代表者

井出 匠（Ide, Takumi）

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）・准教授

研究者番号：40732665

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題においては、第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義とユダヤ人迫害の実態について、当該地域内の各国の歴史を専門とする研究分担者による個別の事例研究および総合的な比較分析を行なった。2020年から2023年までの研究期間中の研究成果としては、シンポジウムまたは公開ワークショップを計5回開催したのに加え、研究分担者による多数の研究業績（図書・論文・研究発表等）を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一次世界大戦後に成立した中・東欧の諸国家には、その成立背景、政治体制、ユダヤ人の社会的位置づけなどの点において様々な差異が存在した。本研究課題においては、各国・地域における政治的・社会的再編の過程において反ユダヤ主義が果たした役割や機能に着目しつつ、反ユダヤ主義のレトリックやその担い手、またユダヤ人迫害の実態にみられる諸特徴の比較分析を通じて、その相違点と共通点を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In this project, research members specializing in the history of the countries in Central-eastern Europe and Russia examined individual cases of anti-Semitism in the region prior to World War II and proceeded with comprehensive comparative analysis on those cases. For this purpose, we held five symposiums or public workshops in the research period from 2020 to 2023 and also publicized a number of achievements (books, papers, presentations etc.) by the research members.

研究分野：ヨーロッパ史

キーワード：反ユダヤ主義 中・東欧 ロシア

1. 研究開始当初の背景

中東欧・ロシアにおけるユダヤ人迫害をめぐっては、とりわけ第二次世界大戦中のナチ・ドイツによるホロコースト、および衛星諸国政府によるそれへの協力が現代史上の大きなテーマとされ、欧米を中心に多くの実証研究が行われてきた。それらの研究では、ホロコーストは基本的にはナチ・ドイツの官僚機構およびそれに追従した諸国のファシスト政権によって遂行された、いわば「公的な」犯罪であるとされる。しかし比較的最近になって、ドイツ占領地域や衛星諸国の一般市民のなかにも、殺害を含む暴力(ポグロム)や資産接収などのユダヤ人迫害に積極的にかかわった者が少なからず存在した事実、焦点が当てられるようになった。

こうした一般市民によるユダヤ人迫害については、当然ながらナチ・ドイツのユダヤ人排斥政策の影響下に実行されたという側面が大きい。ただしその背景に、中東欧・ロシアで19世紀後半に始まり、とくに大戦間期に大きな広がりを見せた反ユダヤ主義、そしてそれに伴って実際に行なわれたユダヤ人迫害が、歴史的基層として存在した可能性は否定できない。ユダヤ人を異質なものとして差別・排除し、ときには過激な暴力の対象とするような社会的風潮が、第二次大戦開始以前にすでに広範に存在していた事実は、これまでもとくにポーランドやロシアのユダヤ史研究者たちによって明らかにされてきた。しかしながら、A. 国や地域ごとの政治的・社会的性格の相違は、それぞれの反ユダヤ主義やユダヤ人迫害のあり方に、何らかの形で反映されていたのか、B. 特定の政治勢力による反ユダヤ主義イデオロギーは、いかにして一般の人々のあいだに浸透し、受容され、さらには暴力の実践へと移行したのか、C. 差別・迫害の対象とされたユダヤ人たちは、この状況にどう対応し、問題の解決に向けていかなる取り組みを行なおうとしたのか、これらの諸点は、なお十分に解明されてこなかった。

2. 研究の目的

本研究では上述の問題関心を踏まえ、第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義およびユダヤ人迫害について、国家・地域ごとの実態を明らかにしたうえで、それらの比較分析に取り組むこととした。対象となる領域は、当該時期に反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害の広がりが認められたオーストリア、ハンガリー、スロヴァキア、ポーランド、リトアニア、ロシアである。研究の目的は、次の三点に要約される。

国や地域ごとに異なる政治的・社会的状況が、それぞれの反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害に見られる諸特徴にいかなる影響を及ぼしたのか、という点を明らかにする。

反ユダヤ主義的な言説やイデオロギーが、いかなる条件のもと、いかなる人々のあいだに浸透し、いかにして直接的な迫害に結びついたのか、という点を明らかにする。

各地のユダヤ人たちは、反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害をどのように受け止め、これにどのように対応しようとしたのか、という点を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、各研究分担者が共通の問題枠組みのなかで個別に遂行する「分担研究」と、その成果を共有し、議論し、外部に向けて発信するための「共同プロジェクト」から構成される。

分担研究は、上述の研究対象地域の近現代史を専門とする研究分担者によって、個別に遂行されるものである。各研究分担者は、本研究全体の基本的指針として上述の目的 ~ を共有しつつ、各担当地域における研究蓄積および各人の問題関心・研究手法に応じて、~ のうちいずれか(またはすべて)を主たる研究目的として設定する。そのうえで、共同プロジェクトにおいて総体としての比較分析を成立させることを目指す。

共同プロジェクトでは、研究代表者である井出の統括のもと、研究分担者による数次の合同研究会、国内外の学会への参加、本研究課題を主題とするシンポジウムの開催、国外研究者の招聘等の活動に取り組む。それらを通じて、分担研究の総合的な比較分析を行ない、その最終的な成果の発信に結びつけることを目指す。

4. 研究成果

本研究の主要な研究成果は、研究実績報告書に記載した刊行物等のほか、年度ごとに開催した公開ワークショップおよびシンポジウムにおいて公表された。以下、それらの概要を述べる。

・2020年度公開ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開 - 地域比較の観点から - 」(2021年1月23日、オンライン)

両大戦間期の中・東欧において、反ユダヤ主義政治運動の影響力が広範な住民層にまで及び、さらにそれが暴力を伴う直接的迫害へと発展していく具体的なプロセスの解明は、最近になってようやく開始され、今後いっそう発展していくことが期待される。本研究も、この課題に取り組むことをその目標の一つとしている。そこで2020年度の公開ワークショップでは、まずはその端緒として、大戦間期のポーランド(西村木綿「両大戦間期ポーランドの反ユダヤ主義事件に

おけるアカデミアの役割」、リトアニア（重松尚「両大戦間期リトアニアの反ユダヤ主義的言説と事件」）、そしてハンガリー（姉川雄大「定数制限法」（1920年法律第25号）とハンガリー・反ユダヤ主義史について」）の三つの事例における反ユダヤ主義の展開を跡づけつつ、それらの比較検証を試みた。

・2021年度公開ワークショップ“The Development of Antisemitism in Central-Eastern Europe during the Interwar Period: From the Perspective of Regional Comparison”（2022年1月30日、オンライン）

前年度のワークショップから引き続き比較研究の試みとして、2021年度の公開ワークショップではゲスト報告者のGrzegorz Krzywiec氏（ポーランド科学アカデミー）が“Were Poles to be doomed to anti-Semitism?”と題する報告を行い、19世紀末から両大戦間期にかけてのポーランドにおける反ユダヤ主義の展開と、その性格の変遷を明らかにした。

・2022年度公開ワークショップ「歴史の利用・再利用とホロコーストの記憶」（2023年1月21日、東京大学駒場キャンパス）

中・東欧諸国においては、冷戦期から体制転換後に至るまで、ホロコーストの歴史的検証に自発的に取り組むための場所は十分に与えられてこなかった。それがようやく積極的に進められるようになってきたのは、欧州統合が進展した2000年代以降のことである。2022年度の公開ワークショップでは、「ホロコーストの記憶」の問題をテーマとして取り上げ、とくにポーランド（宮崎悠氏「ポーランド映画に描かれる（または描かれぬ）ホロコーストの記憶」）とハンガリー（姉川雄大「ハンガリー史」とホロコーストの記憶について」）の事例を軸に、それが歴史問題として利用されていくプロセスに焦点をあてた。

・2023年度小シンポジウム「ハプスブルク帝国の継承諸国における反ユダヤ主義の展開」（2023年10月8日、明治大学駿河台キャンパス）

2023年度の小シンポジウムでは、ハプスブルク帝国とその継承諸国に着目し、国家（地域）間の比較および帝国期と両大戦間期の通時的比較という二つの比較の視点から、具体的事例に即した検証を試みた。そのための具体的事例として、オーストリア（野村真理「黒いウィーンの反ユダヤ主義」）、ハンガリー（姉川雄大「戦間期ハンガリーにおける反ユダヤ主義・人種主義と複合差別体制」）、スロヴァキア（「スロヴァキアにおける反ユダヤ主義の展開：二重君主国期から両大戦間期にかけて」）を取り上げ、国家形成期における政治的・社会的再編の過程で反ユダヤ主義が果たした役割、また帝国期から両大戦間期にかけての反ユダヤ主義にみられる質的变化ないし連続性に着目しつつ、各国および地域の事例を比較検証した。

・2023年度公開ワークショップ「第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害」（2024年3月6日、東京大学駒場キャンパス）

【第1セッション】「ロシアの反ユダヤ主義とファシズム その歴史的余波」

帝政期から革命を経て内戦期にいたる混乱の時代に顕在化したロシアの反ユダヤ主義、またその暴力的発現形態であるポグロムの規模や歴史的重要性は、中東欧のそれと比較しても、むしろ際立っているといえる。そして、それらの余波というべきものは、時代と地域を超えて大きな広がりをもつこととなったといえる。そこで、2023年度の公開ワークショップの第1セッションではこのテーマを取り上げ、ともにロシアを専門とする高尾千津子（「ファシズムとロシア亡命者 ロシア・ファシストの源流と拡散」）と鶴見太郎（「被害の結末 - ポグロムから始まる世界史・序説」）の両名が独自の観点から報告を行った。

【第2セッション】“Antisemitism and Transformation Processes in East-Central European Societies after WW1”

2023年度公開ワークショップの第2セッションでは、第一次世界大戦後に新たに成立した国々における政治的・社会的再編の過程において反ユダヤ主義が果たした役割や機能に着目しつつ、それらの諸特徴の比較分析を通じて、その相違点と共通点を明らかにすること、また帝国期と両大戦間期の中・東欧社会には一定の連続性が存在したとの観点に立ちつつ、そうした社会的条件に基礎づけられたものとして、両時期の反ユダヤ主義の性質に何らかの連続性を見出すことを目標とした。そのために、当該地域の専門家として招いたチェコ科学アカデミーのMichal Frankl氏による報告“Phantom citizenship. Denaturalization of Jews in Poland and Czechoslovakia at the end of the 1930s and the legacies of the empires”、およびポーランド科学アカデミーのGrzegorz Krzywiec氏による報告“New radical politics 'from below' in the face of the 1930s refugee crisis in Poland. The case of 'Zbaszyn' and 'Polenaktion' reconsidered (1938-1939)”が行われ、チェコスロヴァキアおよびポーランドを事例として、上記の問題についての検証が試みられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 鶴見太郎	4. 巻 964
2. 論文標題 イスラエルが繁栄する陰で：リベラルな国際秩序の非リベラルな参加要件	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鶴見太郎	4. 巻 95
2. 論文標題 ウクライナ・ロシア関係史 - 2022年ウクライナ侵攻の背景 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地歴・公民資料	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鶴見太郎	4. 巻 823
2. 論文標題 ユダヤ人と被差別部落	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 重松尚	4. 巻 67
2. 論文標題 ホロコーストの原因の追求と責任の追及 『同胞』（ルータ・ヴァガイナテ、エフライム・ズロフ著）の出版に寄せて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユーラシア研究	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村真理	4. 巻 37
2. 論文標題 イギリスにおけるユダヤ人難民の受け入れ 1933～1939年	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ユダヤ・イスラエル研究	6. 最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村木綿	4. 巻 7
2. 論文標題 第二次世界大戦前のクラクフのユダヤ人社会 ガリツィア・ユダヤ博物館の巡回展によせて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Artes Mundi	6. 最初と最後の頁 92-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出匠	4. 巻 50
2. 論文標題 19・20世紀転換期の北部ハンガリーにおける カトリック政治運動とスロヴァキア・ナショナリズム運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋史研究 新輯	6. 最初と最後の頁 77-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 TSURUMI Taro
2. 発表標題 Carrying over of Memory: Pogroms in Ukraine during the Civil War and Riots/Uprising in Palestine in the 1920s
3. 学会等名 History from Below: Microhistorical Approaches to the History of East European Jewry, at Vilnius, Lithuania (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TSURUMI Taro
2. 発表標題 Carrying over of Memory: Pogroms in Ukraine during the Civil War and Riots in Palestine in the 1920s
3. 学会等名 38th Annual Conference of the Association for Israel Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TSURUMI Taro
2. 発表標題 Inter-ethnic Relations in Late Imperial Russia Memorized: Pogroms as a Background of the Zionist Perception of Arab Riots/Uprisings in Palestine
3. 学会等名 54th Annual Convention, Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (ASEEES) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鶴見太郎
2. 発表標題 集合的記憶の入植 ロシア東欧におけるポグロムとパレスチナにおける暴動/反乱
3. 学会等名 シンポジウム「帝国と民族のあいだ パレスチナ/イスラエルをめぐるもうひとつの層」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鶴見太郎
2. 発表標題 あるロシア・ユダヤ人のなかの国際関係 D・S・パスマニク『クリミアにおける革命期』を読む
3. 学会等名 日本国際政治学会2023年度研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鶴見太郎
2. 発表標題 被害の結末 ポグロムから始まる世界史・序説
3. 学会等名 公開ワークショップ：「第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 重松尚
2. 発表標題 東欧の「ファシズム」 両大戦間期・第二次大戦期のリトアニア人ナショナリズム運動の事例から
3. 学会等名 東京大学GSIキャラバンプロジェクト「「小国」の経験から普遍を問いなおす」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 重松尚
2. 発表標題 リトアニアのユダヤ人に関する歴史叙述の変遷
3. 学会等名 日本ユダヤ学会2023年度シンポジウム
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野村真理
2. 発表標題 戦争と「国民の境界」
3. 学会等名 ドイツ現代史学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野村真理
2. 発表標題 黒いウィーンの反ユダヤ主義
3. 学会等名 東欧史研究会・ハプスブルク史研究会個別研究報告会 小シンポジウム「ハプスブルク帝国の継承諸国における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西村木綿
2. 発表標題 誰が、なぜ、「ポーランドのユダヤ史」を書くのか（シンポジウム「東欧ユダヤ史研究の過去と現在」）
3. 学会等名 日本ユダヤ学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高草木邦人
2. 発表標題 20世紀初頭ルーマニアにおけるユダヤ人組織と政党政治
3. 学会等名 日本大学史学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 姉川雄大
2. 発表標題 「ハンガリー史」とホロコーストの記憶
3. 学会等名 東欧史研究会2022年度1月例会 公開ワークショップ：「歴史の利用・再利用とホロコーストの記憶」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 姉川雄大
2. 発表標題 東欧近現代史におけるナショナリズム 戦間期ハンガリー史における「国民化できない/されないこと」
3. 学会等名 九州歴史科学研究会 7月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 姉川雄大
2. 発表標題 戦間期ハンガリーにおける反ユダヤ主義・人種主義と複合差別体制
3. 学会等名 東欧史研究会・ハプスブルク史研究会個別研究報告会 小シンポジウム「ハプスブルク帝国の継承諸国における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮崎悠
2. 発表標題 ポーランド映画に描かれる（または描かれない）ホロコーストの記憶
3. 学会等名 東欧史研究会2022年度1月例会 公開ワークショップ：「歴史の利用・再利用とホロコーストの記憶」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高尾千鶴子
2. 発表標題 杉原千畝をめぐる新史料（戦間期から戦時へ） - - ハルビン・ロシア・東欧
3. 学会等名 早稲田大学ロシア東欧研究所
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高尾千鶴子
2. 発表標題 ファシズムとロシア亡命者
3. 学会等名 公開ワークショップ：「第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井出匠
2. 発表標題 スロヴァキアにおける反ユダヤ主義の展開：二重君主国期から两大戦間期にかけて
3. 学会等名 東欧史研究会・ハプスブルク史研究会個別研究報告会 小シンポジウム「ハプスブルク帝国の継承諸国における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井出匠
2. 発表標題 スロヴァキアのユダヤ人：二重君主国期からホロコーストまで
3. 学会等名 モラビア学・スロバキア学フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takumi Ide
2. 発表標題 The Slovak National Movement in the Early Twentieth Century in Local Contexts
3. 学会等名 ICCEES 10th World Virtual Congress（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鶴見太郎
2. 発表標題 解釈する記憶 ロシア帝国における暴力の記憶がパレスチナへ転移するとき
3. 学会等名 日本社会学会第94回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taro Tsurumi
2. 発表標題 Reciprocity between Different Ethnic Aspects in the Self : Russian Jews and Dual Nationalism around the Revolution
3. 学会等名 Association for the Study of Nationalities World Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井出匠
2. 発表標題 世紀転換期北部ハンガリーにおける人民党運動とIud
3. 学会等名 東欧史研究会 2020年度小シンポジウム(オンライン)「近現代の中東欧における「Populus」をめぐって」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井出匠
2. 発表標題 19世紀末北部ハンガリーにおけるカトリック政治運動と反ユダヤ主義
3. 学会等名 2020年度早稲田大学史学会大会 西洋史部会(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 重松尚
2. 発表標題 両大戦間期リトアニアの反ユダヤ主義的言説と事件
3. 学会等名 公開ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村木綿
2. 発表標題 両大戦間期ポーランドの反ユダヤ主義事件におけるアカデミアの役割
3. 学会等名 公開ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 姉川雄大
2. 発表標題 「定数制限法」(1920年法律第25号)とハンガリー・反ユダヤ主義史について
3. 学会等名 公開ワークショップ「大戦間期中東欧における反ユダヤ主義の展開」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 鶴見太郎ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 トランスビュー	5. 総ページ数 368
3. 書名 私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか	

1. 著者名 鶴見太郎ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 320
3. 書名 講義 ウクライナの歴史	

1. 著者名 TSURUMI Taro ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 290
3. 書名 A New Approach to Global Studies from the Perspective of Small Nations	

1. 著者名 ルータ・ヴァナガITE、エフライム・ズロフ（重松尚訳）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東洋書店新社	5. 総ページ数 472
3. 書名 同胞 リトアニアのホロコースト 伏せられた歴史	

1. 著者名 重松尚ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 536
3. 書名 グレーゾーンと帝国 歴史修正主義を乗り越える生の営み	

1. 著者名 野村真理	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 262
3. 書名 ウィーン ユダヤ人が消えた街	

1. 著者名 野村真理ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 岩波講座 世界歴史 第16巻	

1. 著者名 姉川雄大ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 ハプスブルク事典	

1. 著者名 姉川雄大ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 錦正社	5. 総ページ数 327
3. 書名 第一次世界大戦と民間人：「武器を持たない兵士」の出現と戦後社会への影響	

1. 著者名 宮崎悠	4. 発行年 2022年
2. 出版社 群像社	5. 総ページ数 136
3. 書名 戦勝記念碑とピアニスト 一九一〇年七月一五日演説にみるパデレフスキの政治思想	

1. 著者名 宮崎悠ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 ロシア・ウクライナ戦争と歴史学	

1. 著者名 井出匠ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 392
3. 書名 スロヴァキアを知るための64章	

1. 著者名 井出匠、重松尚、姉川雄大、野村真理、宮崎悠ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 中欧・東欧文化事典	

1. 著者名 Taro Tsurumi ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Pennsylvania Press	5. 総ページ数 464
3. 書名 From Europe's East to the Middle East: Israel's Russian and Polish Lineages	

1. 著者名 重松尚ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学 海外事情研究所	5. 総ページ数 220
3. 書名 多様性を読み解くために	

1. 著者名 野村真理、重松尚ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 リトアニアを知るための60章	

1. 著者名 西村木綿、宮崎悠ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 432
3. 書名 ポーランドの歴史を知るための55章	

1. 著者名 野村真理ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 344
3. 書名 「民族自決」という幻影	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	姉川 雄大 (Anegawa Yudai) (00554304)	長崎大学・多文化社会学部・准教授 (17301)	
研究分担者	鶴見 太郎 (Tsurumi Taro) (00735623)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	野村 真理 (Nomura Mari) (20164741)	金沢大学・人間社会研究域・客員研究員 (13301)	
研究分担者	西村 木綿 (西村木綿) (Nishimura Yuu) (30761035)	名古屋外国語大学・世界共生学部・講師 (33925)	
研究分担者	宮崎 悠 (Miyazaki Haruka) (40507159)	成蹊大学・法学部・教授 (32629)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	重松 尚 (Shigematsu Hisashi) (90850917)	明治学院大学・国際学部付属研究所・研究員 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高尾 千津子 (Takao Chizuko)		
研究協力者	高草木 邦人 (Takakusagi Kunihito)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Public Workshop: Antisemitism and Transformation Processes in East-Central European Societies after WW1	開催年 2024年～2024年
国際研究集会 Online Workshop “The Development of Anti-Semitism in Central-Eastern Europe during the Interwar Period: From the Perspective of Regional Comparison”	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関